

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
 【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	33 書道学専攻	責任者	高橋利郎
基準5	学生の受け入れ	自己評価	A
★基準5の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<<回答>> 学生の受け入れについてはおおむね適切に行われているため。			
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。		
★<学生の受け入れ方針>（記入してください。） <前期課程> 文学研究科書道学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。 1. （1）書学と書作の両分野において、学部で培った基礎的な知識と技能を持ち、専門的に高度な知識と技能を修得するための学力を有している。 2. （1）書学や書作に高い関心を抱き、広い視点から書をめぐる文化の諸問題を究明するため、自らの課題や社会的要請を意識しながら創造的に表現することができる。 （2）現代社会における「書」の文化的役割や機能を深く理解し、社会人として優れた表現力と判断力を持ち、国際人として積極的に活躍することができる。 3. （1）「中国書学」「日本書学」「中国書法」「日本書道」「書跡文化財学」のいずれかに関わるテーマに沿って専門的に追究する意欲を持ち、関連する高度職業人を目指している。 <後期課程> 文学研究科書道学専攻博士課程後期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。 1. （1）書学・書跡文化財学について、博士課程前期課程（修士課程）などにおいて修得した知識や技能を持ち、博士論文を執筆するために十分な学力がある。 2. （1）学際的な視野をもって書をめぐる文化の諸問題を究明するため、自らの課題や社会的要請を意識しながら創造的に研究に取り組むことができる。 （2）現代社会における書の文化的役割や機能を深く理解するとともに、社会人として優れた表現力と判断力を持ち、国際人として積極的に活躍することができる。 3. （1）「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」のいずれかに関わるテーマに沿って専門的知識と研究方法を身につけ、多様な場面において指導的な役割を担う人材となることを目指している。		変 更	有（ ） 無（○）
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15		
評価の視点2※	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。		

【基礎要件●】	根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針	
評価の視点3※	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。	
【基礎要件●】	根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針	
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程	
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報	
評価の視点3※	専攻ごとに入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。 根拠資料→A3-11* 入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿	
評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程	
★項目(2) 5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。		
＜回答＞	入試問題の作問には大学院担当全教員が当たり、実技や小論文の採点は全教員で行う。可否については、専攻会議を開催し、全教員の協議と確認のもと判定している。	<資料名> 33-C5-1 : ①2023 年度 大学院入学試験委員（出題・採点・面接・問題フィードバック担当） ②書道学専攻入試判定資料（抜粋）
★項目(2) 5-2②オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施（オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。）		
＜回答＞	オンラインによる入試を実施していない。	
評価の視点5	入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。（一般入試及び多様な入試への対応）根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程	
★項目(2) 5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の配慮等）（オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。）		
＜回答＞	オンラインによる入試を実施していない。	
◆学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）		
＜回答＞	なし	
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。	
評価の視点1※	専攻の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。（2021年5月1日現在） 注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率（5年平均） 定員超過→2.00 以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50 未満(改善課題)、博士課程 0.33 未満(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16	
評価の視点2※	専攻の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。（2021年5月1日現在） 注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→2.00 以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50 未満(改善課題)、博士課程 0.33 未満(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16	
評価の視点3	収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	
★項目(3) 5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策（今後実施予定のものも含む）根拠資料を用いて回答してください。		

<<回答> 入学者数は適切である。		<<資料名> 33-C5-2：なし
点検・評価項目(4)	5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023年度点検・評価シート B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について	
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。	
★項目(4)5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。		
<<回答> 修士論文・修士制作の中間発表会や大学院特別講義への学部生の参加を促している。		<<資料名> 33-C5-3： ①2022年度書道学専攻「修士論文」中間発表会案内・「修士作品」中間発表会掲示 ②2022年度書道学専攻「特別講義」開催案内

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	入学を検討する者に対して、研究科において説明会を開催している。また、大学院各種行事に学部生の参加も促している。
-------	---

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	教員数の減少に伴い、ゼミ数も減少し、現状の定員が過多の状況にあるものと考えられる。
--------	---

IV 【改善計画(事業計画)】

カテゴリ	計画番号	B票No. or 開始年度	改善計画(アクションプラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

2022年度<所見> 学生の受け入れ方針は、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性が、webサイト等の根拠資料から明確である。 求める学生像や入学希望者に求める水準等の判定方法についても、webサイトによって明らかにされている。学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していること、専攻ごと入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備し、公正な入学者選抜を実施していることについても、webサイトその他の根拠資料から、確認することができる。オンラインによる選抜は実施されていないが、公平な入学者選抜を実施するための取り組みとして、入試問題の作問には大学院担当全教員が当たり、実技や小論文の採点は全教員で行うこと、可否については、専攻会議を開催し、全教員の協議と確認のもと判定していることは評価できる。
--

博士課程前期課程における入学定員に対する入学者数比率（5年平均）は0.94、収容定員に対する在籍学生数比率は0.86、博士課程後期課程における入学定員に対する入学者数比率（5年平均）は0.80、収容定員に対する在籍学生数比率は1.22と適正範囲内で管理されているといえる。

学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価する作業も行われていることが根拠資料から確認できる。改善・向上に向けた取り組みとして、研究科で入試説明会を開催している。また、論文・制作の中間発表会、大学院特別講義に学部生の参加を可としていることも評価できる。

COVID-19への対応・対策として、面接時に一部 ZOOM を用いたことや例年より広い教室の確保したことも評価できる。

2023年度<所見>

学生の受け入れ方針は、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性があり、学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定し明確に定められている。公正な入学者選抜として、入試問題の作問、実技や小論文の採点は教員体制で行い、可否については、専攻会議で、全教員の協議と確認のもと判定することなどは評価できる。

2023年度の博士課程前期課程の入学志願者数は13、入学定員に対する5年平均比率は0.91、収容定員充足率は1.14、博士課程後期課程の志願者数は4、入学定員に対する5年平均比率は0.87、収容定員充足率は1.22であり、適正に管理されており、文学研究科において唯一前期課程、後期課程ともに定員充足となっていることは高く評価できる。また、改善・向上に向けて修士論文・修了制作の中間発表会や大学院特別講義への学部生の参加を促すなどの取り組みを実施されていることは評価できる。今後も在籍学生数比率が適切に保たれることを期待する。

◆評価の基準について

※学部、研究科等評価基準

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。

大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。

大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。